

第二部 Film Music

Program

1. チム・チム・チェリー Pf. 五十嵐 麗央
2. Over the Rainbow Vo. 大澤 和音 Pf. 五十嵐 麗央
3. アイ・ガット・リズム Pf. 鶴澤 奏
4. My Way Sax. 小山 桃佳 Pf. 鶴澤 奏
5. レミゼラブルメドレー
～夢やぶれて～プリュメ街～オン・マイ・OWN～
Vo. 大澤 和音 Pf. 五十嵐 麗央
6. ムーン・リバー Sax. 小山 桃佳 Pf. 鶴澤 奏
7. 踊り明かそう Vo. 大澤 和音 Pf. 五十嵐 麗央

映画『メリー・ポピンズ』1964年 ウォルト・ディズニー生誕50周年

“夢と魔法の国”の創造者であるウォルト・ディズニーにとって、なかなか叶えることのできなかった夢。それが、この「メリー・ポピンズ」の映画化です。原作者であるパメラ・トラヴァースの反対により20年もの歳月がかかりました。2015年公開の映画「ウォルト・ディズニーの約束」では、そんな舞台裏が描かれています。「メリー・ポピンズ」といえばアニメーションと実写のコラボレーションが印象的ですが、その実現には多くの障害がありました。一体、トラヴァースとウォルトの間にどんな物語があり、映画「メリー・ポピンズ」が生まれたのか。ぜひそちらもチェックしてみてください。

映画『最後のマイウェイ』2012年

「My way」はフランク・シナトラの名曲としてご存知の方も多いかも知れません。しかし、それは元々フランスの曲なのです。つまり、現在知られている「My way」には原曲があったのです。この映画は、そんな原曲の作曲者であり人気シャンソン歌手であったクロード・フランソワの生涯と、「My way」の誕生を描いた伝記映画として2012年に公開されました。主演はジェレミー・レニエ。彼の容姿はクロード・フランソワとそっくりで、映画を観ている人も本人と見間違えるくらいだったそうです。

映画『レ・ミゼラブル』2012年

世界43ヶ国で上演されて大ヒットを記録した名作ミュージカルを、ヒュー・ジャックマン、ラッセル・クロウ、アン・ハサウェイら豪華キャストで映画化。監督は「英国王のスピーチ」でアカデミー監督賞を受賞したトム・フーパー。第85回アカデミー賞でファンティーンを演じたアン・ハサウェイが助演女優賞に輝きました。

ジャン・バルジャンを演じたヒュー・ジャックマンは「これほど積極的に役柄を欲しいと思ったことは今までなかった。どうしてもつかみかかった。」とインタビューで語っています。

映画『ティファニーで朝食を』1961年

冒頭の名シーンといえは、黒いドレスに身を包みティファニーのショーウィンドウの前で朝食をとるオードリー・ヘップバーン。生涯彼女の美しさを引き立て続けたユベール・ド・ジバンシーによるデザインのドレスは当時とても注目を集めました。

映画『オズの魔法使』1939年

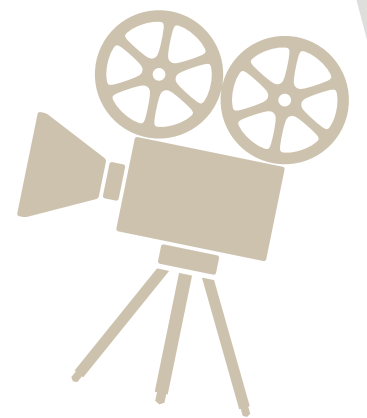
虹の彼方に夢の国があると信じるドロシーは、ある日大竜巻に巻き込まれオズの国へと運ばれていた。故郷へ帰るため彼女はエメラルド・シティを目指し、知恵のない案山子、心を入れ忘れたブリキ人形、臆病なライオンとともに旅をする。当時は、モノクロ映画からテクニカラー映画への転換期でもあったことから、セピア色に染まったモノクロのカンザスの田舎町と、極彩色で彩られたオズの国との対比を表現しています。

映画『巴里のアメリカ人』1951年

この映画の見どころと言えは、クライマックスの壮大な18分間のダンスシーン。鮮やかな色彩とガーシュウィンの音楽で華やかに描かれています。また、パリの街や建物が総てセットで作られていて、逆にそれがパリらしい効果をもたらしています。この映画はアカデミー賞作品賞をはじめ6部門で受賞し、振付を担当したジーン・ケリーに対しても「俳優、歌手、監督、ダンサー、とくに振付による業績」により名誉賞が贈られました。

映画『マイ・フェア・レディ』1964年

当時流行っていたミュージカル映画の撮影スタイルはロケを多用し舞台の枠から離れようとする傾向がありました。例えばサウンド・オブ・ミュージックなどが挙げられます。『マイ・フェア・レディ』はそれらのミュージカル映画とは異なりオールセットで撮影され、舞台芸術がもつ美しさそのものが生かされています。



Audrey Hepburn